

補助事業番号 23-2-033

補助事業名 平成23年度 障害のある人が幸せに暮らせる社会を作る活動

補助事業者名 公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会

## 1. 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

在宅聴覚障害者の指導や特別支援教育の中でも特に困難とされている聴覚障害児教育の効果を高めるため、教育機器や研修体制の整備を行い、もって文教、環境その他の公益の増進に寄与する。

### (2) 実施内容等

上記の目的を達成するため下記の事業を実施した。

#### ア FM補聴システムの無償貸与

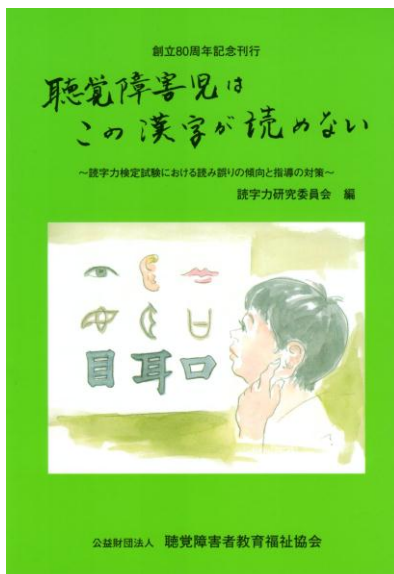
この装置は、補聴器を装用した聴覚障害児が、周囲の雑音に妨げられずに音声の聴取を可能にさせるものである。補聴器等の聴能機器専門メーカーリオン株式会社が開発したもので昨年度から貸与を開始したもので、本年度は50組を購入して家庭に貸与した。本年度の貸与実績は50台で貸与率は100%であった。



## イ 両親指導書「聴覚障害児はこの漢字が読めない」（初版）の無償配布

聴覚障害児は聴覚の障害故に音韻表象を身につけることが困難な傾向があり、そのため漢字の読みが苦手である。今般立ち上げた読字力研究委員会が中心となり当協会が30余年にわたって続けてきた読字力検定試験の答案を分析し、指導上の対策を指導現場や保護者に提起し、読字力の向上を図ることを意図に「聴覚障害児はこの漢字が読めない」を刊行した。

B6判 184頁 1000部を家庭に配布



## ウ 移動母子教室の開催

両親教育と幼児の指導、各2日間6ヶ所で開催

開催地 一宮市、鹿児島市、直方市、水戸市、岐阜市、諫早市で開催。

専門家講師による指導で参加者の日頃の不安が解消されると同時に大きな自信を身につけることができたという好評であった。





## 2 予想される事業実施効果

### ① FM 補聴システム貸出事業

聴覚活用の拠り所として全国的に貸出の希望が寄せられ、多くの学校・施設・家庭での利用が広まってきている。補聴効果はもとよりコミュニケーション能力の伸長にも良い効果をもたらすと好評である。

### ② 指導誌の刊行

「聴覚障害児はこの漢字が読めない」初版刊行。聴覚障害児が苦手な漢字の読誤りの原因を分析しそれをもとに指導対策を提起したもので先行研究がないことから指導現場や保護者からの問い合わせも多く今後の活用が期待できる。

### ③ 講習会の開催

斯界の専門家がなかなか得られない地方を中心に当協会の専門性豊かな講師陣による保護者・教員を対象とした移動母子教室・指導者講習会は、毎年好評で一度開催すると次年度も必ず申し込む状態が続いている。より具体的な内容で行われることから保護者や教員の手探りの不安を解消し、自信をもって子育てに取り組むことができるようになったという感想が多数寄せられている。

3 本事業により作成した印刷物等

「聴覚障害児はこの漢字が読めない」初版 1000 部 B6 版 184 ページの無償配布により保護者に子育ての大きな拠り所を与えることができた。

4 事業内容についての問合せ先

団 体 名： 公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会

住 所： 162-0051

東京都新宿区西早稲田 2 丁目 2-8

代 表 者： 会 長 山 東 昭 子

担 当 部 署： 事 務 局

担 当 者： 専 務 理 事 小 林 明

電 話： 03-3203-4765

F A X： 03-3203-4765

E - mail： [wasedanomori@amethyst.broba.cc](mailto:wasedanomori@amethyst.broba.cc)

U R L： <http://www13.plala.or.jp/wasedanomori>